

仙台市文化財調査報告書第28集

年報 2

昭和 55 年度

昭和 56 年 3 月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第28集

年 報 2

昭 和 55 年 度

昭 和 56 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

序

最近、財政危機とか財政再建、経済の不況下における企業倒産の激増とか、気候異変による農業不振とか、学校内暴力事件とか……云々というように、暗雲ただよう社会情勢の中にあって、民俗行事の復活、民俗芸能の後継者養成、伝統工芸の伝承、古建築物の保存、遺跡発掘調査の成果、芸術文化の地域化など、文化財全般にも及ぶこのような日常的な報道は、われわれの生活に何かしら、ほのぼのとした光と力と安堵感を与えるにはおかしい。本来、文化財とはそうしたものなのかも知れない。だから大切であり、貴重な存在ともいえるのかも知れない。幸い、仙台市には、まだ数々の文化財が伝わっている。市民がこぞって関心をもち、後世に継承していくことは極めて意義深いことであると考えます。

本年も、当市教育委員会は、文化財保護委員の諸先生方の御指導を仰ぎながら、これら文化財の保護保存に関する日常的な事業を数多く実施してまいりました。なかでも、とくに注目したいのは、埋蔵文化財発掘調査事業において発見された、今から5～6万年前の前期旧石器時代の文化層の発見（山田上ノ台）や郡山遺跡における櫛木列の発見は学史にのこる事業として価値あるものであるといえます。本書は、こうした文化財全般の事業内容を概略的にまとめて報告するものであります。

最後に、本市の文化財行政の発展に際し、今後共多大の御指導、御協力を賜りますよう御願い申し上げ、序とするものであります。

仙台市教育委員会

教育長 藤井 繁

例　　言

1. 本書は、仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係、調査係が昭和55年度に行なった、文化財の調査、文化財保護思想の普及、啓発活動、文化財の保護、管理に関する各種事業についての年度報告書である。
2. 本年度に発掘調査を実施した遺跡は、独自に概報または報告書として刊行されるので、本書には掲載されていない。
3. 南小泉遺跡試掘調査報告は、昭和54年度末に実施したものを作成したのである。また当報告で使用した地図は、建設省国土地理院発行の仙台東南部の2万5千分の1地形図を縮小して使用した。
4. 仏像影刻緊急実態調査は台帳作成する目的で今年度と来年度に渡り実施するものであり、今回は、今年度調査分を簡単にまとめて報告したものである。この調査が終了した際には本報告書をまとめる計画である。
5. 「仙台市郡山地区における講集団について」という民俗調査報告は、今も残る風習を少しでも記録にとっておくことを目的とするもので、昨年の年報1に次いで2回目である。今後も各地に伝承されている民俗資料を調査し、紹介していきたい。
6. 本書の編集には結城、渡辺があつたが、係員全員の協力をあおいだ。

目 次

序	
例 言	
目 次	
職 員 錄	
I. 事業報告	
1. 管理関係	1
(1) 一般文化財	1
(2) 國庫補助事業関係	3
(3) 県費補助事業関係	4
(4) 噴鳳殿跡出土品修復委託	5
2. 調査関係	5
II. 調査報告	
南小泉遺跡試掘調査報告	9
昭和55年度指定文化財調査報告	15
仙台東照宮本殿より発見された墨書き銘について	19
仏像彫刻緊急実態調査略報	24
仙台市郡山地区における講集団について	34
III. 取 帯	
1. 外部協力活動	38
2. 研修と視察	38
3. 寄贈図書について	38
4. 仙台市内の指定文化財	39

職 員 錄

社会教育課

課長 永野昌一
主幹 早坂春一

文化財管理係

係長 鈴木昭三郎
主査 鈴木高文
主事 山口宏
渡辺洋一

文化財調査係

係長(兼) 早坂春一
主事 田中則和
結城慎一
柳沢みどり
篠原信彦
木村浩二
佐藤洋
金森安孝
佐藤甲二
渡部弘美
工藤哲司
主浜光朗
斎野裕彦
吉岡恭平
教諭(兼) 加藤正範
青沼一民

I. 事業報告

1. 管理関係

(1) 一般文化財

1) 文化財保護委員会

仙台市文化財保護条例の規程に従い、年6回偶数月に会議を行なっているが、本年の主要な議題としては、刀工本郷国包各代の墓所の指定について、山田上ノ台、郡山遺跡等今年度当教育委員会で行なって来た発掘調査についてなどが討議された。

2) 文化財パンフレット

昨年の「仙台市の古建築Ⅱ(明治以降)」に次いで、「仙台市の古建築Ⅲ(失なわれた古建築)」として、焼失、取扱等で現在失なわれてしまった古建築の代表的なものをピックアップして掲載した。

また、これまで長い間絶版となっていた「仙台のあゆみと文化財」(昭和51年4月1日初版発行)の改訂復刻、「埋もれた仙台の歴史」(昭和53年3月31日初版発行)の重版を合せて行なった。

3) 説明板、標柱の設置

今年度は良覚院丁庭園、刀工本郷国包之墓所、仙台東照宮案内板の説明板3基、大崎八幡神社石鳥居、亀岡八幡神社石鳥居、東光寺古碑群、東光寺磨崖仏の標柱4基の新設及び遠見塚古墳、林子平幕、扇坂、仙台東照宮隨身門の説明板4基の補修、合せて11基の説明板、標柱の設置を行なった。

4) 辻標の設置

市制施行88周年記念事業の一環として由緒ある町名、通名の辻標設置を次のとおり実施した。ホテルメイフラワー前(錦丁・光輝寺通)、仙台大神宮前(片平丁・琵琶首丁)、日銀仙台支店構内(国分町・大町)、長銀ビル前(東二番丁・青葉通)、米ヶ袋佐藤茂氏宅前(米ヶ袋・鹿子清水通)

5) 文化財めぐり

仙台市内にある文化財の見学を通して、市民の文化財に対する認識を深め、文化財の保護思想の普及をはかるため、年3回(うち大人対象2回、子ども対象1回)の文化財めぐりを下記により行なった。子どものための文化財めぐりは初めてバスを利用し、広く仙台の歴史について考えてみよう試みた。また、この時の講師は当課職員が担当したのであるが、このような試みについては、これからも考えてみたい。

対象		大人(第1回)	子ども	大人(第2回)
実施日		55. 5. 25	55. 8. 11	55. 10. 26
コース	新寺小路の各寺院	遺跡発掘、陸奥国分寺跡、高麗城跡		新寺小路の各寺院
講師	三原良吉氏 (仙台市文化財保護委員)	社会教育講師会 鶴澤正義 青沼一民 鏡道洋一		三原良吉氏

6) 文化財講座

第4回仙台市郷土文化財講座は11月28日～30日まで「仙台の遺跡を尋ねて」と題し、仙台市視聴覚教材センターを会場として実施した。28日は遺跡概論として、今まで当市で調査した遺跡を中心に、スライド、レジメを使用した講義、29日は東北歴史資料館技師・岡村道雄氏の「山田上ノ台遺跡出土の旧石器」、宮城学院女子大学助教授・工藤雅樹氏の「古代における仙台の歴史的位置」と題する講演、30日は山田上ノ台遺跡の現地見学を行なった。

3日間、30数名の市民が参加したが、来年以降、時期、時間、内容等更に検討を加え、より良い文化財講座を続けていきたいと思う。

7) 伊達屋敷

聖ウルスラ学院より伊達屋敷を寄附採納し、昭和56年度以降において解体復元することとなった。同屋敷は明治時代の華族邸宅の典型をなすものである。(仙台市文化財パンフレット第4集参照のこと)。昭和55年に発見された棟札には、「起工明治36年6月20日上棟明治38年2月26日伊達邦宗」とある。設計は登米小学校(宮城県指定有形文化財)の設計監督をした山添喜三郎である。

8) 文化財分布調査

仙台市内にある文化財の基本台帳整備のための確認調査を実施した。

9) 文化財防災保守点検

例年1月26日を文化財防火デーとして防災訓練その他の行事を行なっているが、本年も下記に示した行事を仙台市消防局と共に実施した。

事前査察

- 55. 1. 21 大崎八幡神社、龍宝寺、仙台東照宮、知事公館、仙台市博物館、瑞鳳殿
 - 55. 1. 22 陸奥国分寺薬師堂、白山神社、落合観音堂、大満寺、愛宕神社
 - 55. 1. 23 善應寺開山堂、旧仙台城板倉、仙台市歴史民俗資料館
- 防災訓練
- 55. 1. 26 大崎八幡神社、龍宝寺、陸奥国分寺、白山神社、仙台東照宮、仙台市歴史民俗資料館、善應寺、落合観音堂

10) 指定文化財の維持管理

昭和55年8月に遠見塚古墳の除草消掃と陸奥国分尼寺跡の樹木剪定、9月に陸奥国分寺跡の樹木消毒（アメリカシロヒトリの消毒）を行なった。

（2）国庫補助事業

1) 史跡陸奥国分寺跡環境整備事業

目的 史跡陸奥国分寺跡を保存保護し、あわせて活用を図るために、遺構の表示、復元、修景等史跡の環境整備を行なう。

土地の公有化 指定面積91,485m²のうち、主要堂塔跡を中心に昭和43年度から昭和54年度まで14,679m²の買上げを行なっている。今後も奈良時代の寺域線内を優先的に買収していく方針である。本年度は軒廊跡を含む薬師堂周辺の土地買収を実施した。

発掘調査 遺構の復元、表示のため整備工事着手前に基礎資料を得るための発掘調査を実施している。本年度は東門跡と、それに接続する築地跡部分の調査を行ない、東門基壇の一部、築地跡の規模等、昭和30～34年に実施した調査で不明であったところを解明する等の成果があった。

整備事業 本年度は東門跡前面（東側）の整備工事の設計、監督を公園課に依頼して実施した。54年度以前の整備は寺域線内であったが、今回始めて寺域線外の整備工事であり、全国的にも例がなく、今回の整備がテストケースになると思われる。

2) 史跡遠見塚古墳環境整備事業

目的 史跡遠見塚古墳の保護保存を図り、あわせて市民の活用に供するため、史跡にふさわしい状態に整備する。

土地の公有化 当初指定面積17,500m²の一部バイパス用地約50m²を除き、昭和43年度から昭和48年度までに買収が完了している。今後は追加指定された主軸線北西部 445m²の公有化を図っていく。

発掘調査 墳丘部の整備に着手する基礎資料を得るために、本年度は前方部東側墳麓線の確認および前方部と後円部の接続部の確認等を実施し貴重な資料を得た。

整備事業 本年度は史跡指定地東部の民有地隣接地に植栽を行ない、墳丘周辺部の修景工事を実施した。

今後の事業予定 今後は古墳周辺部東側の整備と墳丘部の整備工事を実施していく方針である。

3) 郡山遺跡発掘調査事業

郡山遺跡は以前から古代の瓦が散布することで知られていたが、本格的な調査を行なったことはなく、遺跡の性格等については不明のままであった。昭和54年に宅地開発に伴う事前調査が行なわれ、1200～1300年前の土器や住居跡、掘立柱建物跡等が発見された。その調査結果を

ふまえ関係機関と協議した結果、昭和55年度から国庫補助事業として5ヶ年計画により遺跡の範囲、規模、性格等について調査することが決定した。

今年度はその初年度にあたり、種々の資料や現地を検討し三町四方の区画線を推定し、航空写真を基に現況図を作成するとともに調査区を設定し調査を実施した。その結果、推定中央部からは大規模な柱穴列、南辺推定部からは大溝と欄木列が発見され、南辺を区画する施設と考えられる。また西南隅については、頭初推定地点から更に一町西に延びて方四町と推定される地点で北に直角にまがることが判明、またその曲折部からは大形の柱根が遺存する櫓跡と考えられる遺構も発見されたため、調査途中で国庫補助金の増額を受け追加調査を行なうなど、多大な成果をあげて今年度の調査を終了し来年度への期待を強めた。

来年度は、今年度南辺および西辺が確認されたので、東辺の調査と、以前からの懸案であつた古瓦の出土地について調査する予定である。

4) 史跡陸奥国分寺跡土地買上げ事業

目的 史跡陸奥国分寺跡の保存保護を図るため、史跡指定地の公有化を図る。

土地公有化の実績 土地の公有化は昭和43年度から着手し、昭和55年度末まで寺社有地を中心にして、主要堂塔跡約15,300m²の公有化を実施している。

今年度事業と今後の事業予定 今年度は鐘楼跡と僧坊跡をつなぐ土地、一部軒廊跡にかかっている場所、薬師堂周辺部の土地592.02m²の公有化を実施した。今後の事業の最終目標は史跡指定地内全域の公有化を図ることであるが、現実には諸条件がからむため困難が多く、現状変更に伴う買取り請求の都度対応していくなど、段階的に進めざるを得ない。昭和56年度は史跡指定地東南部民家2棟分の土地と、国分寺宝物館敷地、准胝観音堂周辺の土地等約2,200m²の買上げを予定している。

5) 仙台東照宮本殿保存修理事業

昨年度の継続事業として本殿の保存修理工事が行なわれ、昭和55年6月30日をもって竣工した。

6) 大崎八幡神社防災事業

文化庁建造物課の指導により、国宝社殿、国指定重要文化財長床の避雷針設置その他の防災工事が行なわれた。

(3) 県費補助事業

宮城県指定無形文化財の館山中午氏（平曲技術保持者）、甲田綏郎氏（精好仙台平技術保持者）及び大崎八幡神社能神楽（無形民俗文化財）保存会の二人一団体に対し、若干の技術保持についての管理費補助が行なわれている。

また国指定物件の建築物（大崎八幡神社、陸奥国分寺薬師堂、仙台東照宮）二件について、

維持管理の万全を期するため行なう防災設備保守点検、小修理等に要する経費の補助が行なわれている。

(4) 瑞鳳殿跡出土品修復委託

昭和49年10月に実施した伊達政宗公墓所瑞鳳殿跡の発掘調査により出土した副葬品の漆器類等について、東京国立文化財研究所に委託して修復処置の研究を行なっている。現在までに系谷太刀梨地煙管箱の修復が完了している。

今年度は黒漆白梅薄絵箱の復元修理研究、漆芸品収納ケース内の湿度調整、シーズニングに関する研究、青銅製品等の錆進行防止に関する研究を委託している。来年度は黒漆白梅薄絵箱の漆膜を新しい木地箱へ移植し、修復の完了を予定している。

2. 調査関係

(昭和55年度) 埋蔵文化財発掘調査事業概要

昭和55年度の発掘調査事業は、公共事業関連では茂庭園地造成に伴う遺跡群（梨野A、嶺山A・B・C、沼原A・B・C）の調査、富沢地区の農業土地改良圃場整備事業関連の銀治屋敷A遺跡の範囲確認調査がある。民間開発事業（個人開発を含む）では岩切鴻ノ巣遺跡、神明社窯跡、山田上ノ台遺跡等々の調査を実施した。また、国庫補助関連の事業としては、史跡遠見塚古墳の墳丘線確認調査、史跡陸奥国分寺跡の東門跡保存状況と規模確認調査そして郡山遺跡の重要遺跡緊急範囲確認調査（5ヶ年計画の初年度）があり、その他住宅建築や小規模開発に関連する事前調査、追跡確認調査等々数多くの調査件数に上っている。これらの調査対象面積はほぼ数万平方メートルにも達している。このような遺跡調査の成果を列記すると次の通りである。

①山田上ノ台遺跡は、縄文時代中期末葉と考えられる、複式炉を伴う竪穴住居跡20数軒が台地一帯に検出され集落構造を知る重要な資料を得たこと。また、この台地を覆う赤褐色火山灰の調査も行われ、旧石器時代の文化層が10面確認され、その中には前期旧石器（5～6万年以前）時代の生活面も包藏されていることが判明したことによって、この遺跡は古い前期旧石器時代から縄文時代を経て奈良・平安時代に及ぶ複合遺跡であり、前期旧石器時代の存在を層序的に検証し得た、わが国初の検証例として注目に値する重要な遺跡となったこと。②また、郡山遺跡の調査においては、推定官衙城南辺に一致して「櫛木」が東西約300mの距離をもってすき間なく林立し、その南西隅には「隅櫛」と考えられる建物跡が付設され、かつ外郭施設は櫛木列から外へ約30尺の間隔をもって大溝をめぐらし、全体的規模は、ほぼ「方4町」にも及ぶ一大官衙域を構成していることが確認された。この官衙は年代的にも奈良時代初期頃と考え

られるもので、多賀城以前の古代東北の開拓史を解明する上で、名生館遺跡（古川市）と並んで最も重要な資料の提示となった遺跡である。③神明社廬跡の調査では、古代瓦窯に関連する工房跡の発見、④茂庭団地内嶺山C遺跡の調査からは、平安時代の製鉄造構の発見等々、大きな成果を得ることができた年といえよう。

しかし、このような成果の裏には種々の問題がひそんでいることを考えざるを得ない。仙台市内に分布する、このような埋蔵文化財包蔵地も、年毎に大規模な面積をもって減少していることに目を向けねばならないと云うことである。文化財も有限である以上、その軽重を問わず長い間には皆無の状態が到来することは容易に推測できる。先人がこしてくれたこのような文化遺産は、われわれ現代人の生活に対しても、無限に語りかけてくれる貴重な財産であることを温故知新の理念に則って思考するとき、こうした状況をいかに回避していくかが、保護行政上重要な課題である。

その他の事業として、本年は文化財の協力・普及・啓発を基調として、「仙台の文化財分布地図」を改定刊行した事業がある。これは一般市民向けのものではなく、関係行政機関に対する認知資料として限定刊行したものである。まだまだ内容的には不充分な点はあるが、今後は一般市民にも親まれる企画で改定再版を考えていく方針である。

昭和55年度発掘調査の概略

遺跡名	時代	種類	対象面積	調査面積	調査期間	担当課員	備考	
郡山遺跡	奈良・飛鳥	官街跡	—	1,475m ²	% ~ %	木村、青沼、加藤、森野、結城	29集	
陸奥国分寺跡	奈良～平安	寺院跡	—	400	% ~ %	工藤、金森、青沼	27集	
遠見塚古墳	古墳	古墳	—	327	% ~ %	工藤、金森、福原	26集	
鴻ノ巣遺跡	古墳～中世	集落跡	2,034m ²	540	% ~ %	工藤、金森	32集	
山州下ノ谷遺跡	旧石器、绳文、平安、近世	集落跡	16,034	積算6,000 確認4,250	% ~ %	渡部、土浜、佐藤洋、柳原、金森	30集	
成	沼原A	绳文・平安	土塼、Tピット	1,340	850	% ~ %	佐藤洋、森野	31集
	* B	绳文	散布地	1,200	420	% ~ %	森野、加藤	
	* C	*	*	2,800	530	% ~ %	加藤、森野	
府	旗山A	*	土塼、Tピット	2,300	1,920	% ~ %	森野、加藤、佐藤洋	31集
	* B	*	Tピット	2,000	560	% ~ %	佐藤洋、森野	
	* C	绳文・平安	散布地、製鉄跡	3,400	1,060	% ~ %	佐藤洋、森野、加藤	
特	梨野A	绳文・古城	集落跡	2,400	970	% ~ %	森原、佐藤洋、加藤、森野	34集
	神明社遺跡	平安	瓦工房跡	1,949	1,200	% ~ %	木村、青沼、金森、工藤	

現状変更許可申請

S 56. 1. 27現在

権利番号	遺跡名	所在地	原区	整地番号	遺跡名	所在地	原区
55-1	史跡陸奥国分寺跡	木ノ下二丁目79-33	住宅解体新築	55-4	史跡陸奥国分寺跡	木ノ下二丁目3-20	住宅解体新築
2	*	木ノ下二丁目5-1	プレハブの撤去	5	*	木ノ下二丁目10-10	地改築
3	国分尼寺跡	白萩町34-10	倉庫増築	6	*	木ノ下二丁目74-1	道路整備新築

昭和55年度発掘届（通知）一覧

S 56・1・27現在

整理番号	遺跡名	所 在 地	施 工	開 先 面 積	取 扱	遺 跡 の 性 格
55-1	C-101 滝沢 通 路	熊沢字上の台5	宅地造成	1,161 ^{**}	手作調査予定	純文・土師・須恵・瓦片散布地
2	C-215 砂 坪 *	神野字砂坪61	住宅新築	132 ^{**}	立会 游み	土師器散在地
3	C-102 南小泉 *	遠見塚二丁目222-13	*	219 ^{**}	*	弥生・古墳時代の墓落跡
4	C-231 砂 口 *	荒井字砂口135-1外	宅地造成	4,963 ^{**}	試掘 游み	土師器散在地
5	C-509 小 銀 城 西	小城字足利9番地	住宅新築	84 ^{**}	立会 游み	城跡跡
6	C-102 南小泉 通 路	遠見塚二丁目177-8	*	76 ^{**}	*	弥生・山城時代の墓落跡
7	C-193 山山上ノ台	山田字上ノ台2番地外	宅地造成	15,316 ^{**}	手作調査中	純文時代の墓落跡
8	C-421 七山東延余平跡	高町字土手平下34	共同住宅新築	140 ^{**}	立会 游み	朱墨跡
9	C-136 蓬 墓 路	中南町字蓬石5-1	コンクリートパイル打設	2,158	*	土師器・須恵器散在地
10	C-102 南小泉 *	古城二丁目12-2	住宅新築	112 ^{**}	*	弥生・古墳時代の墓落跡
11	C-152 磐の原駒A	高田字北山ノ北外	埋蔵監査事業	379,000	試掘 游み	土師器散在地
12	C-225 稲 務 1	高田町二丁目243-4	事務所新築	254 ^{**}	立会 游み	土師器散在地
13	C-102 南小泉 *	遠見塚二丁目222-35	住宅新築	214 ^{**}	*	弥生・古墳時代の墓落跡
14	C-234 朝隈敷 *	六丁目字北壁敷前17番地の2	仓库新築	479 ^{**}	*	土師器・須恵器散在地
15	C-224 稲 務 1 *	稻寄字稻寄1-11,23,33-1	共同住宅新築	192 ^{**}	*	土師器散在地
16	C-224 稲 務 1 *	*	*	115 ^{**}	*	*
17	C-233 地藏窟 *	六丁目字行留第7	寺域・多西所新築	256 ^{**}	*	中世御殿跡散布地
18	C-113 雲久東 *	中山町字安久東23-6	住宅新築	205 ^{**}	*	土師器散在地
19	C-102 南小泉 *	遠見塚二丁目507-1	宅地造成	1,895 ^{**}	試掘 游み	弥生・古墳時代の墓落跡
20	C-234 稲 務 1	稻寄字稻寄1-89	住宅新築	318 ^{**}	立会 游み	土師器散在地
21	C-201 南小泉 *	遠見塚二丁目135-14	*	97 ^{**}	*	弥生・古墳時代の墓落跡
22	C-027 香心寺隣院	香心寺字山20番地	庄内移転	74 ^{**}	*	積木と埴輪残地
23	C-211 中田相中連跡	猿投字中16番8号	新造所新築	595	*	土師器・須恵器の散在地
24	C-234 朝隈敷 *	六丁目字度山南4-1	サッシ組立工場建築	489	*	遺物散在地
25	C-102 南小泉 *	南小泉字見屋塚西70-5	住宅新築	61 ^{**}	*	弥生・古墳時代の墓落跡
26	C-102 南小泉 *	遠見塚二丁目7-12	埋藏	35 ^{**}	文 会	*
27	C-104 郡 山 *	郡山五丁目317-1	事務所新築	40 ^{**}	立 會	古墳跡
28	C-501 白 台 城 諸	青瀬川河岸	記念碑建立	99 ^{**}	立会 游み	城跡跡
29	C-102 南小泉 通 路	南小泉字伊藤敷前1-1,2	宅地造成	2,520	試掘 游み	弥生・古墳時代の墓落跡
30	C-215 砂 坪 *	神野字砂坪23-3	住宅新築	200 ^{**}	立会 游み	土師器・須恵器散在地
31	C-102 南小泉 *	南小泉四丁目83	*	655 ^{**}	*	弥生・古墳時代の墓落跡
32	C-224 稲 務 1 *	福島字稻寄1-94	*	299	*	土師器散在地
33	C-104 郡 山 *	郡山田二丁目5丁目	下水道事業	778 ^{**}	試掘 游み	古井跡
34	C-215 砂 坪 *	神野字砂坪23-6	住宅新築	70 ^{**}	立会 游み	土師器・須恵器散在地
35	C-102 南小泉 *	遠見塚二丁目503-1	*	144 ^{**}	立 會	弥生・古墳時代の墓落跡
36	C-231 砂 口 *	荒井字砂口35-12	*	247 ^{**}	*	土師器散在地
37	C-231 砂 口 *	* 35-16	*	190 ^{**}	*	*
38	C-231 砂 口 *	* 35-17	*	178 ^{**}	*	*
39	C-193 山山上ノ台 内部 脇ノ内側	山田字上ノ台1-2 竹ノ内側 高田字砂坪西外	水管配設工事	800	試掘 予定	純文・平安時代集落跡 土器類、瓦片等 純文・房生土器等もさき地
40	C-231 砂 口 *	荒井字砂坪35-9	住宅新築	357 ^{**}	立会 游み	土師器散在地
41	C-231 砂 口 *	* 35-14	*	199 ^{**}	立 會	*
42	C-526 日 通 路	日沼字高田26番	盛土及土削工事	436	試掘 游み	城跡跡
43	C-215 砂 坪 通 路	沖野字砂坪23-5	住宅新築	60 ^{**}	立会 游み	上師器・須恵器の散在地
44	C-102 南小泉 *	古城二丁目18番8号	埋藏	57 ^{**}	立 會	弥生・古墳時代の墓落跡
45	C-102 南小泉 *	遠見塚二丁目1-2	都市計画川内部小泉町跡	*	手作調査予定	*
46	C-104 郡 山 通 路	郡山二丁目8-9 二丁目29-26	都市ガス本管敷設	254 ^{**}	立会 游み	古井跡
47	C-224 稲 務 1 *	稻寄字稻寄1-17	共同住宅新築	986 ^{**}	立 會	土師器散在地
48	C-102 南小泉 *	南小泉二丁目22-12	住宅新築	264 ^{**}	立会 游み	弥生・古墳時代の墓落跡
49	C-104 郡 山 *	郡山二丁目121-1-2	仓库新築	129 ^{**}	試掘 游み	古井跡
50	C-102 南小泉 *	南小泉二丁目91	共同住宅新築	431 ^{**}	立 會	弥生・古墳時代の墓落跡
51	C-421 七山東延余跡	高町字土手34	*	209 ^{**}	立 會	古井跡

監理番号	造 路 名	所 在 地	座 国	実化面積	取 様	造 路 の 性 格
55-52	C-105 鹿小島造路	鹿児島一丁目16-26	住宅新築	257. ¹⁰⁰	立 食・共生・古墳時代の墓落跡	
53	C-136 墓	中田町字西90 1, 75-1	*	272. ¹⁰⁰	立食 游み 土壙跡、遺物散在	
54	C-141 古墳跡	鏡ヶ谷字内側8 1, 10-1	*	220. ^{**}	*	上部跡、活用跡、純文字層の出土
55	C-506 中野城跡	沖野字南72, 73, 76, 78, 78-1	住宅造成	7,067	地盤調査予定	城跡跡
56	C-502 高森城跡	近町字平1, 29-1, 80, 81	一切削除、改築	3.	立食 游み	*
57	C-101 鹿 沢 路	鹿切町内西145-5, 6	新 墓	61. ^{**}	立 食	古墳跡?
58	C-135 道ノ原	鹿切字南1, 東104-1	住宅新築	70. ^{**}	試 掘 游み	土壙跡、遺物散在
59	C-104 郡 山	郡山二丁目108-3	*	82. [*]	立食 游み	官衙跡
60	C-197 八坂田	大野田字竹原一五五四	ダム新築工事	190.	立食 游み	弓含地
61	C-105 鹿小島	鹿児島二丁目222-34	住宅新築	183. ^{**}	*	共生・古墳時代の墓落跡
62	C-101 鹿 沢	鹿切町内西45-1	*	238. ^{**}	*	寺配跡?
63	C-421 立白東池廻塚跡	鹿小島字七郎90-10	*	353. ^{**}	*	泉井跡
64	C-102 鹿小島造路	鹿小島西丁目83	物販新築	50.	*	共生・古墳時代の墓落跡
65	C-104 郡 山	郡山三丁目127の3	住宅新築	53. ^{***}	試 掘 游み	官衙跡
66	C-102 鹿小島	鹿児島一丁目4-1	増 墓	12. ^{**}	立食 游み	共生・古墳時代の墓落跡
67	C-223 山 L1	鹿邑字下の内浦20-1	住宅新築	203. ^{**}	*	遺物包含地
68	C-197 六反田	大野田字1, 楠田14-6	*	252	*	現文・古墳・平安時代の墓落跡
69	C-105 西山川	郡山二丁目3-30地内	支障移位工事	368. ^{**}	立 食	共生時代の墓落跡
70	C-514 國分塚跡	東千番195, 45-1	マンション施設	1,311. ^{**}	立食 游み	城跡跡
71	C-421 立白東池廻塚跡	鹿小島南26番外	七柳字学校分校跡2	19,000.	*	泉井跡
72	C-104 郡 山 道	郡山二丁目119-8	住宅新築	194. ^{**}	*	官衙跡
73	C-140 宮 久	中山町字安久28	住宅造成	2,211. ^{**}	試 掘 游み	古墳・中世集落跡
74	C-509 小 須 城 路	小野字御門9-5	住宅新築	313. ^{**}	立 食	城跡跡
75	C-104 郡 山 道	郡山二丁目111-8	車庫新築	23. ^{**}	*	官衙跡
76	C-104 郡 山	郡山四丁目8-9	ダム警戒設工事	122. [*]	立食 游み	*
77	C-102 鹿小島	鹿児島二丁目507-1	住宅新築	505. ^{**}	*	共生・古墳時代墓落跡
78	C-104 郡 山	郡山一丁目4-8	倒溝の改修	360.	*	官衙跡
79	C-102 鹿小島	鹿児島一丁目25-3, 228-1	住宅新築	65. ^{**}	立 食	共生・古墳時代墓落跡
80	C-102 鹿小島	*	*	62. ^{**}	*	*
81	C-102 鹿小島	鹿児島一丁目203	増 墓	440. ^{**}	*	*
82	C-224 無亭1	福岡字鶴舞一番80-12	住宅新築	79. ^{**}	*	土師器散在地
83	C-113 宮久東	西中町6丁目10-19, 10-20	*	222. ^{**}	立食 游み	古墳・中世集落跡
84	C-113 宮久東	*	*	190. ^{**}	*	*
85	C-104 郡 山	郡山二丁目3-19	増 墓	11. ^{**}	立 食	官衙跡
86	C-506 北 野 城 路	東四丁目5-7	給水管埋設工事	42.*	立食 游み	城跡跡
87	C-135 門ノ堀遺跡	鹿切字南ノ堀53-2	住宅新築	310. ^{**}	*	土師跡・遺物散在
88	C-105 上 野	高洲字上野東4-5, 4-6	*	86. ^{**}	試 掘 游み	純文時代の墓落跡
89	C-215 鹿 沢	沖野字砂原20-1, 76-3	*	206. ^{**}	立食 游み	土師器散在地
90	C-507 今 里	今里久保195-1	宅地造成	1,375. ^{**}	手荷器具予定	城跡跡
91	C-514 國分塚跡	郡山二丁目5-1	事務所新築	320. ^{**}	立 食	*
92	C-234 明皇教遺跡	六丁目字庚州前60-1(ロード)	倉庫、事務所の新築	3,901. ^{**}	試掘 予定	土師器・活用跡散在地
93	C-102 鹿小島	鹿児島一丁目228-5	住宅新築	68. ^{**}	立 食	共生・古墳時代の墓落跡
94	C-102 鹿小島	油押塚一丁目228-4	*	66. ^{**}	*	*
95	C-514 國分塚跡	郡山二丁目18-4	住宅新築	9. ^{**}	*	城跡跡
96	C-104 郡 山 道	郡山二丁目12 18	鉄体新築	97. ^{**}	*	官衙跡
97	C-102 鹿小島	鹿児島一丁目127-7	住宅新築	142. ^{**}	*	共生時代・古墳時代の墓落跡
98	C-102 鹿小島	鹿小島四丁目19-16	*	100. ^{**}	*	*
99	C-221 鹿切町中	御福町西	下水管設置	700.	試掘 予定	土師器・遺物散在
100	C-506 冲 野 城 路	沖野字砂原97	住宅新築	16. ^{**}	立 食	城跡跡
101	C-104 郡 山 道	郡山二丁目6-23	*	13. ^{**}	*	官衙跡

II. 調査報告

南小泉遺跡試掘調査報告

1. 調査要項

所在地	仙台市古城三丁目429-5、431-4
調査期間	昭和55年2月27日～昭和55年2月29日
調査面積	30m ²
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会社会教育課文化財係
担当職員	結城慎一、渡部弘美
調査協力	細谷建設株式会社、古屋自動車部品株式会社、真山尚幸、巻野俊夫(東北学院大学生)

2. 遺跡の位置付け

南小泉遺跡は早くから弥生時代から古墳時代の遺跡として知られているが、本格的な調査はなされたことがないところである。しかしながら、昭和52年に当市教育委員会で行なった分布調査によると、その中心部は仙台飛行場から古城三丁目にあると思われ、表採される遺物も弥生時代から平安時代までのものである。南小泉遺跡が從来、弥生時代から古墳時代の遺跡とされているのには、軽痕のある折形圓式の弥生土器が出土したことと、史跡遠見塚古墳が存在していること、また古式土師器である南小泉式を出土する標準遺跡であることによると思われるが、奈良時代以降の遺構、遺物も、当地域北方約1kmに国分寺、国分尼寺が設置されたことも考え合わせ、見のがしてはならないところである。

3. 調査概要

今回試掘を行なうに至った事由は、当該地を2筆に分け、事務所を建設することになったことによる。合わせて約350m²の面積であり、水田であったところに1m強の盛り土がしてあつた。バックホーで数箇所試掘トレンチを入れたところ、竪穴住居跡1棟の一部が検出され、その住居跡の記録をとる形で調査を進めた。雪どけで水位が高く、若干掘り下げるときわめて水が湧く状態であった。

(住居跡内堆積土)

地山は明黄褐色シルトであり、住居跡はそれに掘り込まれている。住居跡内堆積はレンズ状であり、2層に分けられる。上層は灰褐色粘質シルトと黄褐色粘質シルトが混った上層であり、下層は灰褐色粘質シルトである。この上層と下層の間層として、遺物を多く含む炭層がある。貼床は灰白色粘土である。貼床を取り除いた床面は褐色に酸化して堅く、遺物の出土する面

でもある。

(竪穴住居跡の構造)

住居跡の西辺が一部境界外になるので全体を完全に把握できなかったが、ほぼ南北4m、東西5mであり、北辺の中央部に長さ1.5m、幅0.25~0.30mの煙道が付き、焚口部の両袖を含めたカマドの全長は約2mを計る。主軸はN-17°-Eである。

床面のレベルは標高で約10.5mである。床面には約5cmほどの粘土が貼られていることが一部で認められた。煙道は前述したとおりの大きさをもっているが、その断面を見ると、最奥部の煙出し部で確認面から45cmの深さがあり、煙道と北壁との接点で最も浅く、18cmを計ることができる。焚口部は両側に地山削り出しの、長さ約50cm、幅約30cmの袖がある。また両袖に囲まれるように、直径約1mの範囲に炭、灰、焼土が厚さ4~10cm堆積している。この堆積焼土等の下面は貼床下面に一致するが、貼床面から見ると、この焚口部はレンズ状に凹むものであり、その凹部に炭等が堆積した状況を呈している。

(出土遺物)

遺物は破片集計表でもわかるように、土師器が78%、須恵器が22%を占める。器種別に見ると、环が12%、甕が88%になる。また土師器内では环は7%、甕は93%、須恵器内では环が30%、甕が70%出土している。

土師器环は1片を残して内面黒色処理されているが、細片が多いことと、磨耗しているのが多いので調整の観察がむずかしい。底部切り離し技法は不明である。甕片は長胴甕片がほとんどで、巻き上げ痕がはっきりしており、体部下位には縦方向のヘラケズリ痕を残すものがほとんどである。

須恵器环は平底であり、底部切り離し技法は回転糸切りのものと、回転ヘラ切りのものがあり、ヘラケズリの調整を受けているものと、未調整のものがある。甕は体部外面に平行タタキ目痕を残すものと、ロクロで整形しただけのものがある。大甕に該当する破片はない。底部の切り離し技法は明瞭でないが、ヘラケズリの調整をうけていると思われる。

4.まとめ

- ① 検出された住居跡はカマドの全長が2mと特徴的なものであるが、水が湧いてくることもあってか、柱穴の確認ができなかった。
- ② 出土遺物から、この住居跡は平安時代のものと思われる。
- ③ 南小泉遺跡では、畑地より水田地の方が遺構の保存状態が一般的によい。
- ④ 南小泉遺跡の特徴は弥生時代から古墳時代にあるが、遺跡面積の相当の部分は、奈良時代から平安時代にかけての遺構であると思われる。

(結城慎一)

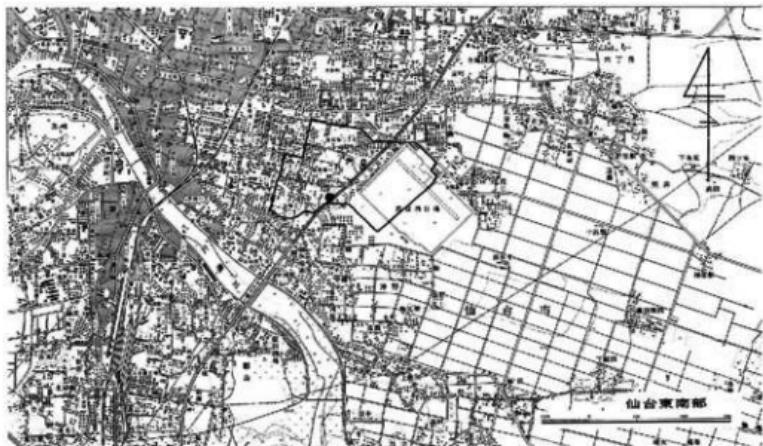
参考文献 仙台市教育委員会「南小泉遺跡」仙台市文化財調査報告書第13集・昭和53年3月



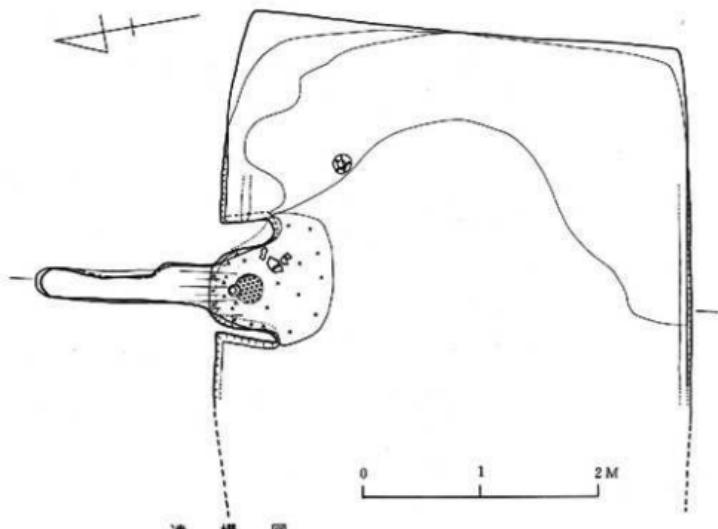
写1 住居跡 全景



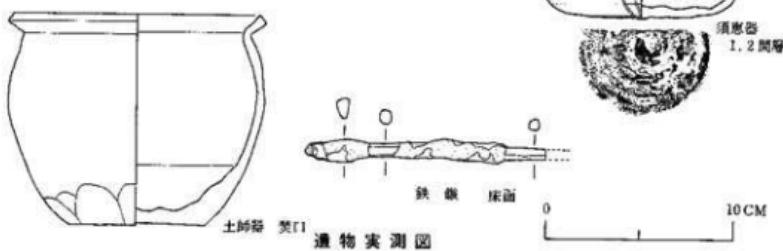
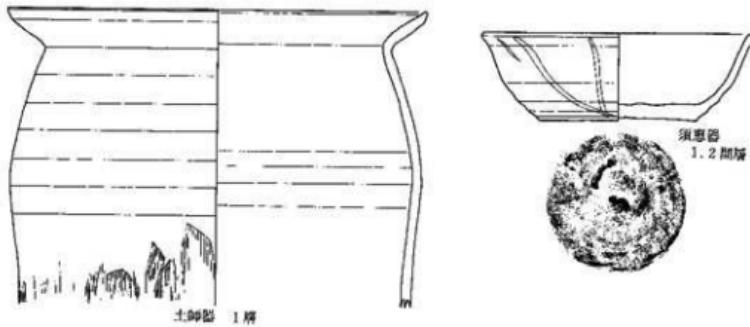
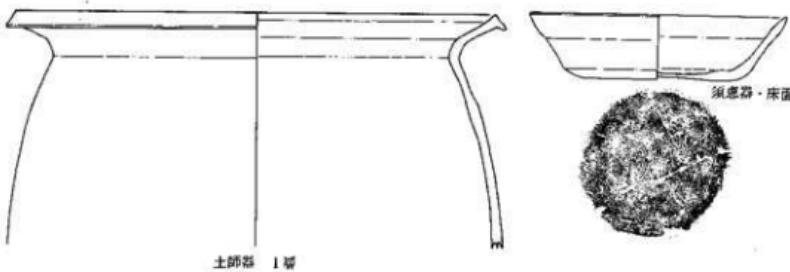
写2 住居跡 カマド



南小泉遺跡と調査箇所



遺構図



破片集計表

種別	器形	部位	幕面調整	煙道	焚口	居住部	
			外面	内面	埋土	床面	埋土
上	環	口	ロクローロクロ				1
		縁	不明一ミガキ側			1	
		部体	不明一不明側			1	
			ケズリーミガキ側			1	
			不明一ミガキ側			1	
		部	不明一不明側			1	
			不明一小明側			1	
		底部					
		小計				2	5
		口	ロクロー不明			2	
中	環	縁	ナデ一小明			1	
		部	不明一不明側			1	1
		体	不明一不明	1			1
			ハケ目一ハケ目		2		2
			ハケ目一不明		1		4
		部	ケズリー一ハケ目		1		7
			不明一ハケ目		1	1	2
			ケズリー一不明				18
			不明一ナデ				1
			不明一不明	4			37
下	環	底	ケズリー一不明			2	
		部	ケズリー一ハケ目		2		
		底部	不明一ハケ目				1
		小計	5	7	2	79	
		不	明				1
		口	ロクローロクロ			2	
		縁	不明一不明			1	
		部	ケズリー一ハケ目			1	
		底部	ケズリー一不明			1	
		小計				5	
底	環	口	ロクローロクロ			1	
		縁	不明一ハケ目			1	
		部	不明一不明			1	
		ケズリー一不明				1	
		小計				5	
		口	ロクローロクロ			1	
		縁	不明一ハケ目			1	
		部	不明一不明			1	
		ケズリー一不明				1	
		小計				3	
底	環	底	ハケ目一ハケ目			1	
		部	平行タタキ一ナデ			1	
		部	平行タタキ一不明		1	5	
		底	不明一ハケ目			4	
		部	不明一不明	1			
		底	不明一ハケ目			1	
		部	不明一不明			1	
		小計		1	1	19	

昭和55年度新指定文化財調査報告

昭和55年度仙台市内で新たに下記の二件の指定が行なわれた。そこで管理団体である当委員会では指定に先立ち緊急調査を行なったので、ここにその調査結果を報告する。

紀

- 宮城県指定有形文化財（昭.55.5.30）指定彫刻：木造阿弥陀如来立像一軸 阿弥陀寺藏
(仙台市新守小路59 代表役員河野正俊)
- 仙台市指定史跡：刀工本郷国包各氏の墓所 善導寺内
(仙台市新守小路88 代表役員山村俊明)

〈調査報告〉

1. 木造阿弥陀如来立像

調査日：昭和54年4月14日

調査員：渡辺洋一、調査補助員：岡崎修子（東北大OG）、横浦由美（東北学院大学生）

●調査結果

阿弥陀寺の本尊である木造阿弥陀如来立像は、聖觀世音菩薩・勢至菩薩両座像（江戸初期の作：元禄期頃か？）の二軸の脇侍像を有す（写真1）。

この像には「承久三年二月日作佛僧宋實」の陰刻銘があり、書体は簡素で力強く鎌倉時代の特徴をうかがわせる（写真2）。

像の造形はすっきりとまとまっており、胸から腰・脚部にかけてゆったりした抑揚がある。彫技がやや浅目で固く繁雜さがないこと、また大腿部を強調するY字形衣文を有することなど快慶様の特色をよく伝承している（写真3）。

面部はひきしまって理知的で、部分的には前代の定朝仏の名残りさえ感じさせる。また螺旋は細かく整っており髪際曲線もなだらかで、鎌倉中期以降に多い波形のうねり（M形）は見られない（写真4・5）。

以上のことからこの仏像は承久三年（1221年）の造作と見て差しつかえないと考えられる。さらに、材質がこの時代には東北地方では産しない檜材であること、技巧的にもまとまつたもので損色がないことなどからこの像が中央で作られ、何時にかこの地にもたらされたものと考えられよう。同時代の片形仏の基準作と比べて幾分の作風の差はあるとはいへ、鎌倉初期の記銘仏像としてその評価は高い。

保存状態については、寺の記録によると同寺が江戸末期から明治初年にかけて廃寺同様に荒廃し、本尊であるこの仏像も相当の破損があったらしく、明治37年に修理が成されたとあるがその折に改作された形跡があり、またその修理時に像全体に厚い紙貼彩色が施されたため原形

の彫技が相當に損われるなど修理の素悪さが指摘される（写真6）。しかしながら面部がほぼ完全な形で保存されており評価に値する。

（渡辺洋一）

2. 刀工本郷国包各氏の墓所

調査日 昭和55年7月2日

調査員 渡辺洋一、山口宏

●調査結果

善導寺所在刀工本郷国包各代の墓所は本堂西側に約11.8m²（東西3.8m×南北3.1m）の面積を有し、ここに初代から十三代までの十三基の墓碑がコの字形に配されている。（写真：配置図）。

本郷国包の祖は大和保昌の末裔とも、またその一族が応永年中（1368～'75年）に奥州に下降したとも言われ、もとは国分氏の家臣として現若林付近に在住していた。慶長年間（1595～1615年）、初代国包が仙台藩祖伊達政宗にその技量を見い出され召し抱えられ、その後幕末までその子孫が代々国包を名のって仙台藩の抱工として120石を知行した。

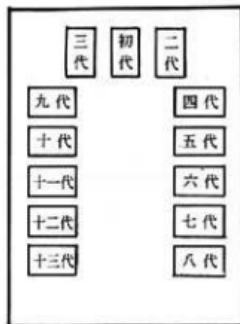
各代とも名工として全国的に有名であるが、特に初代国包は「業物位列新刀古刀の最上大業物十二工中四位」に入る名工で、慶長19年（1614年）山城國越中守政後の門人となり、寛永3年（1626年）には「山城大掾」を受領している。その作風は大和伝の極目録で、重要文化財、重要刀剣の指定を受けているものも数多い。地元の愛好者の中では「国包」を「くにかね」とは呼ばず、「くにがん」で通っている。

初代から十三代までの墓所が同一場所にあるのは全国でも希である。

（渡辺洋一）



写真：刀工本郷国包各氏の墓所（善導寺内）



配置図

木造阿弥陀如来立像



写真1 全 景



写真2 銘 文



写真3 正 面



写真4 面 部



写真5 上 半 身



写真6 破 损 状 況

仙台東照宮本殿より発見された墨書銘について

仙台東照宮（仙台市東照宮一丁目6-1所在）は仙台藩二代藩主伊達忠宗の創建になるもので、うち本殿・唐門・透塀・附身門・石灯籠・石鳥居は国指定重要文化財、手水舎は宮城県指定有形文化財に指定されている。^①

ところで、これらは江戸初期（承応3年：1654年）の建立に成るものがほとんどであることから建立後三百余年を経、老朽化が目立ち破損もひどく、昭和52～55年度にかけて国庫補助事業として文化庁建造物課の指導のもとに保存修理工事が行なわれた。^②

このうち昭和54～55年度にかけて行なわれた本殿の半解体保存修理の工事中に、明和2年（1765年）4月の日付の入った銚金具修理の墨書銘と承応3年正月・文化12年（1816年）3月の日付の入った豊床頭板の墨書銘が発見された。

前者は昭和54年11月20日に銚金具補修のためはずした本殿東側面内法長押の中央に打付けられていた銚金具の裏面から発見されたもので（図：写真1）、その内容は資料1に示したとおり「明和元年間12月から翌2年3月にかけて東照宮大権現（徳川家康）百五拾年の法会に当り銚金具の修理を行なった」旨が記してある（写真2・3・4）。

この墨書銘の発見により以下のことが考えられる。

1. 墨書銘発見以前推測されていた本殿銚金具の建立当初のものは、他の建物の銚金具同様戊辰の役の際、官軍により剥ぎ取られ、現在のものは明治以降に取付けられたとの説は覆された。
2. 墨書銘にあるように、東照宮本殿の銚金具は建立以来今回の修理までに江戸中期に一度修理がなされており、銚金具に使用されている銅板の厚さが薄いものと厚いものと二種類あること、墨書銘に「御修覆」と記されてることからその修理の際に全ての金具が新しいものととりかえられたのではなく、建立当初のもので使用可能なものは再用されたと考えるのが妥当である。従って現存の本殿銚金具には承応三年の建立当初のものと明和2年の修理の際にとりかえられたものと二種類の金具が取付けられていると考えることが可能である。

後者は昭和55年5月初旬に本殿内外陣の豊替のため内陣5豊、外陣7豊の計12豊の豊をあげたところ、図2に示したように①・③・⑧・⑨・⑪の五豊の豊裏へりの頭板より発見されたものである（写真5・6・7・8・9）。

このうち資料2に示したように③・⑪の頭板には東照宮創建当初の承応3年正月の銘が、⑧には文化12年3月の銘が発見された。

この墨書銘から次のようなことが考えられる。

1. 仙台東照宮の創建は本殿棟札（国重文付）にも見えるように承応3年3月17日に竣工しているが、本殿の疊は同年正月にすでに出来ていたことがわかる。
2. 本殿の疊は文化12年3月に一度疊替えが行なわれている。
3. 本殿の疊の縁には絹地が使用されているが、その布地には二種類あり、その一方はその破損状況等から明らかに他方より古いものであることがわかる。このことから文化12年のほかにもう一度部分的な疊替えが行なわれた可能性があるし、またその古い縁の布地と同じ文様の布地が本殿内陣の垂れに使用されていることから^⑦、創建当初の疊がそのまま残っている可能性も考えられよう。

以上がこの度発見された墨書銘についての概要であるが、これらの保存については文化庁建造物課と協議の結果、前者についてはそのままの形で前の場所に貼り付け保存し、後者については、⑧・⑩の頭板は破損が少ないとからそのまま再用し、他の①・③・⑨の三枚については破損がひどいので本殿内陣内に保存することになった。

なお今回の保存修理については『重要文化財仙台東照宮修理工事報告書』に詳しい。

(渡辺洋一)

(註)

- ①. 本殿・唐門・透彌・石鳥居は昭和28年3月31日付で、隨身門・石灯籠は昭和55年1月29日付で国指定重要文化財に、手水舎は昭和39年9月4日付で宮城県指定有形文化財に指定されている。
- ②. 拝殿は昭和10年に放火により焼失し、昭和30年に再建、その部分的修理は成されているものの、今回のような大規模な修理はこれまで記録上はない。
- ③. 昭和52年7月1日～翌53年6月30日まで唐門・透彌の修理が、翌54年1月1日～3月28日までが53.6.12宮城県沖地震に伴う災害復旧が、昭和54年7月1日～翌55年6月30日までが本殿の修理が行なわれた。
- ④『重要文化財仙台東照宮修理工事報告書』参照
- ⑤『重要文化財仙台東照宮本殿保存修理工事に係る国庫補助金申請書』による。
- ⑥・⑦、註④同

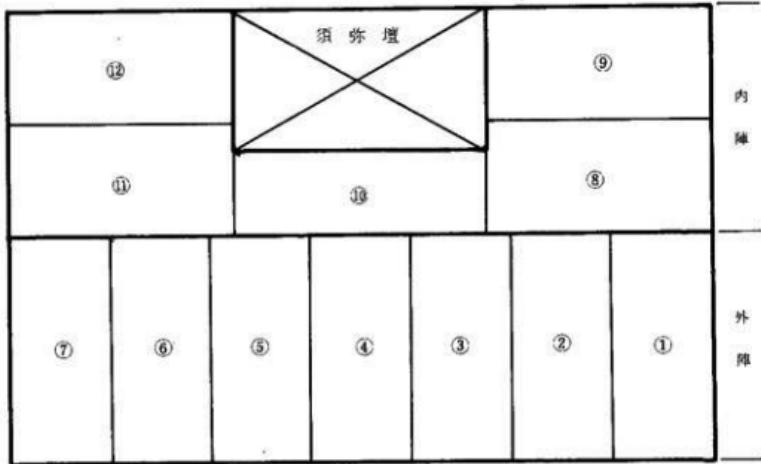
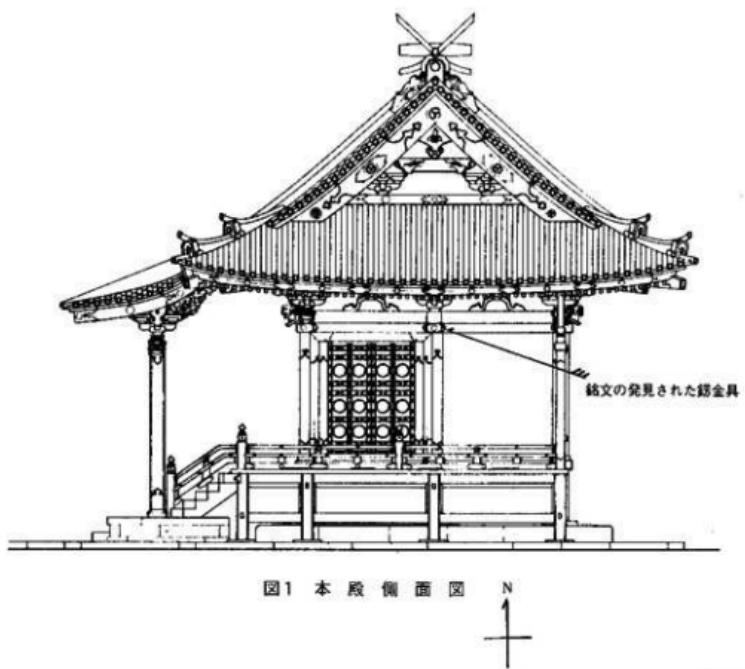


図2 本殿位置図

資料 I

上 よ

東照宮百五拾年

御法會付金物御修羅被

仰付候付明和元年閏

十一月同武年二月中出来

同四月十七日御法會之

明和貳年四月十七日

御法會方取切入司

沿邊左太郎

御鍛治奉行

石川末之丞

同兄届

佐々木勘兵衛

御法會方假煉業

御鍛師源太郎

同主立

御鍛師六兵衛

當式棟梁

御鍛師增兵衛

資料 II

①(南側頭板)
五郎左衛門

③(南側頭板)
午ノ承應三年正月吉日

⑧(東側頭板)
刺手 笹木五右衛門

文化十二年一月吉日
貳百年法會付總表替
刺手助右衛門

⑨(西側頭板)
信六郎

⑪(東側頭板)
午ノ承應三年正月吉日

刺手 福田賀兵衛

久之承是書

者也

御鍛師久左衛門

御鍛師久左衛門

御鍛師久左衛門

御鍛師助左衛門

御鍛師源四郎

同上立

東照宮百五拾年

御法會付金物御修羅被

仰付候付明和元年閏

十一月同武年二月中出来

同四月十七日御法會之

明和貳年四月十七日

御法會方取切入司

沿邊左太郎

御鍛治奉行

石川末之丞

同兄届

佐々木勘兵衛

御法會方假煉業

御鍛師源太郎

同主立

御鍛師六兵衛

當式棟梁

御鍛師增兵衛



写真1 鎏金具銘文



写真6 ①



写真5 ②



写真4 ③



写真3 ③

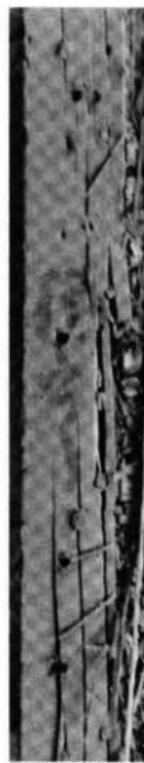


写真2 ①

量頭板銘文

仏像彫刻緊急実態調査略報

調査員 渡辺洋一、佐藤泰（仙台市博物館学芸員）

調査補助員・岡崎修子（東北大文学部OG）、橋浦由美・大久保富美（東北学院大文学部学生）

仙台市教育委員会では市内にある指定物件を含む文化財の現況の把握及び未知の文化財の発見を目的として文化財緊急実態調査を実施することになったが、その手始めとしてこれまで当委員会でも詳細なデータが不足していた仏像彫刻に焦点をあてて調査を行なうこととした。

ところで、一言で仏像彫刻といつても市内には千軒を越える仏像があると推測出来、今回はそのうちでも次に示す方針に基づいた調査を実施することになった。

1. 現在、国・県・市の指定を受けている物件の精査。
2. 市内の寺院の本尊を中心とした物件の実態調査及び精査。
3. 以前実施した分布調査の結果その他で製作年代が古いと見られた物件及び作風その他に特徴のある物件の精査。
4. 寺院その他により由緒の明らかな物件の実態調査及び精査。

なお、調査にあたっては社会教育課文化財管理係が主体となり、仙台市博物館学芸室の協力を得てこれを行なった。また調査上出了る疑問点その他については仙台市文化財保護委員の亀田政東北大学名誉教授の指導を受けた。

〈調査既要〉

今年の調査はこれまでの分布調査のデータ及び文献等による市内の仏像彫刻の実態の把握を行ない（表2）、これを資料として指定物件を含め表1に示した都合13件92幅（うち指定物件7件18幅）の精査及び仙岳院所蔵仏像の予備調査を実施した。

表1 昭和55年度仏像彫刻緊急実態調査実施一覧表

(○印は精査を行なったもの)

寺社名	調査日	調査員	補助員	仏像	年代	著者
阿弥陀寺	55.4.14 8.2 10.22	渡辺洋一 佐藤泰	岡崎修子 橋浦由美	○阿弥陀如来立像（本尊） 聖觀世音菩薩坐像（脇仏） 勢至菩薩坐像（脇仏） ○聖觀世音菩薩坐像 千体地藏菩薩立像 ○・海上人根師像 開基像（一軸） 金剛輪牛頭山坐像	鎌倉（承久二年） 江戸初期 江戸初期 鎌倉 江戸後期	宮城県指定(55.5.30) 仙台三十三観音十七番札所本尊 波奈仏？ 8.2の調査には鶴原氏 (文化庁美術工芸調査室)同行 10.22は 亀田政仙台市文化財保護委員同行

寺社名	調査日	調査員	補助員	仏像	年代	備考
大梅寺	10.30	渡辺		釈迦如来立像（本尊） 毘沙門天立像 ○阿彌陀（庚辰開創本尊）	鎌倉 鎌倉か？ 江戸前期	
善応寺	11.12 11.19	渡辺・佐藤	岡崎	○十一面觀音菩薩立像（本尊） ○吉祥天立像（脇仏） ○弁財天立像（脇仏） 不動明王立像 ○毘沙門天立像 本仏天立像 大黒天坐像 聖觀音菩薩坐像 阿彌陀 二代作像	平安後期 江戸中期 江戸中期	11.19の調査には 丸田委員同行
成覚寺	12.4	渡辺	大久保嘉秀	阿弥陀如来像 聖觀音菩薩坐像 勢至菩薩像 ○聖觀音菩薩立像	平安後期	宮城県指定(49.4.30)
輪王寺	12.4	渡辺	大久保	○釈迦如来坐像（本尊） 聖觀音菩薩立像 愛染明王坐像 毘沙門天立像 不動明王立像 無外方丈花像 仁王像（二幅） 開基碑	江戸前期 江戸前期	市指定(51.7.1) 渡辺
仙岳院	12.7	渡辺				予備調査

今回は初年度でもあり実際行なった調査は表1に示したとおり全体のほんの一部にすぎなかつたが、それでも数多くの成果が得られた。

まず、仙台市内の仏像彫刻は総体的に見て江戸時代、それも元禄時代を中心とした江戸前期の作仏が大多数を占めていること、また一寺院で所蔵している仏像数が仙岳院の百軒余を例外とすれば比較的少ないということがいえる。

③ 江戸前期の作仏の多いということは全国的に見てもその傾向があるとはいえ、これらは市内にある寺院の大半が伊達氏とともに所領を移動してきたもので、仙台開府以前からこの地にあった寺院が少ないと、藩政時代から今日に至るまで幾度か寺町が火災等の災害を受けていることがその一因として考えられる。

とはいっても中世以前の作仏もないわけではなく、今回の調査で特に注目された仏像には、善応寺所蔵の十一面觀音菩薩立像（写真1-1）、毘沙門天立像（写真2）のように平安後期の作と思われるものや、阿弥陀寺所蔵阿弥陀如来立像（写真4）、聖觀音菩薩立像（写真5）、大梅寺所蔵釈迦如来立像（写真3）等のように、鎌倉時代の作仏と考えられるものもあった。

また、他ではあまり見られない種類のものも比較的あり、大崎八幡神社付属大元堂本尊大元明王立像（写真7）、真福寺所蔵伝安國上人祖師像（写真9）、阿弥陀寺所蔵一澤上人視師像（写

真10), 龍泉院所蔵五智如來坐像(写真6)等がその例である。

(付記)

なお今年度の調査に協力をいただいた寺院・神社(表1掲載)及び関係者の皆様には心から御礼申し上げます。

(渡辺洋一)

- ①、当委員会ではこれまで文化財分布調査を実施して来たが、これは埋蔵文化財を中心であり、有形文化財その他については調査らしい調査はされていなかった。
- ②、仏像を主として所蔵している寺院だけでも市内に160を数え(宗教法人として登記のあるもの)、その他単位の仏堂・個人蔵のものを含めるとその実数は把握出来ないのが現状である。
- ③、「宮城県寺院大総覧」宮城県寺院総覧編纂会編(昭和50年)、「仏像影刻」佐々久著(「宮城県史」卷13:昭和55年)、「仙台の寺社と教会」山本晃著(「仙台市史」卷7:昭和28年)、「仙台市内寺院小考」古国一男著(「仙台市博物館年報」4:昭和51年)による。
- ④、仙岳院は藩政時代仙台東照宮別当寺として伊達家一門格筆頭に位置していたことから歴代藩主・仙台藩重臣その他の寄進仏等が多く安置され、また明治初年の神仏分離によりそれまで東照宮にあつた仏教関係の宝物その他が全て同寺へ寄属されたことがあげられる。
- 今年度は仙岳院所蔵仏像が数多いこともあり予備調査のみを行ない、来年度精査を行なう予定であるが、総体的に見てやはり江戸期の作仏が多くその種類は多彩である。
- ⑤、岩切入山の東光寺・越路の宗彈寺等が数えられる程度である。
- ⑥、このうち阿弥陀寺の阿弥陀如来については左足はぞ外側に「承久二年二月廿日作佛僧宋實」の陰刻銘が見え、昭55.5.30付で宮城県指定有形文化財の指定を受けている。
- ⑦、この像の製作年代については鎌倉末と江戸初期説があり、現時点ではどちらともいいがたい。

表2 市内仏像影刻一覧表

宗派	寺院名	住 所	所 蔵 品 (影 刻)	宗派	寺院名	住 所	所 蔵 品 (影 刻)
曹洞宗	永寧寺	新坂通18-1	千手觀音菩薩像(本尊) 觀音菩薩坐像 地藏菩薩像	黄檗宗	耕田寺	釣取下町78	般若寺(仁徳)(本尊) 觀音菩薩像
	円福寺	石名坂61	聖觀音菩薩像(本尊) 地藏菩薩像		般林寺	光町205	聖觀音菩薩像(本尊) 千手觀音菩薩坐像
	雲洞院	福井町一丁目1825	觀音菩薩像(本尊)		金剛寺	渡森宇門野60	觀音半跏坐像(本尊) 毘盧遮那佛坐像(脇佛) 文殊菩薩坐像(・)
	鈎取寺	鈎取字八幡33	藥師如來像(本尊)		秀林寺	北山2-1丁目3-1	軋迦牟尼像(本尊)
	金昌寺	富田字上野中198	觀音半跏像(本尊)		寿光寺	区見町一丁目15	
	金勝寺	東上善丁18	聖觀音菩薩像(本尊)		松谷寺	舟守小路31	觀音如來像(本尊) 迦葉、阿難像(脇佛) 十六羅漢像 青銅子供地藏菩薩像 如意輪觀音菩薩像
	玄光庵	通町一丁目3-16	觀音半跏像(本尊)				
	江嶺寺	北八番丁26	大聖不動王像(本尊) 弟子(脇佛)		松浦寺	土越167	觀音半跏像(本尊) 迦葉、阿難像(脇佛)
	光孝院	東九番丁22	觀音半跏像(本尊) 聖觀音菩薩坐像				

京 源	寺院名	住 所	所 藏 品 (部 别)	京 源	寺院名	住 所	所 藏 品 (部 别)
曹洞宗	成威院	富田市八幡西7	觀音如意像 (木造)	曹洞宗	大藏寺		佛菩薩像
	昌徳庵	東町36	觀音如意像 (木造) 文殊菩薩像 (結仏) 普賢菩薩像 () 四大天王像 十六大菩薩立像 金剛坐像 (立像) 韋馱天立像 馬頭沙彌明王像 毘陀婆羅彌陀像 地藏菩薩立像 達摩大師像 高僧示寂大師像、太祖示寂大師像 祖師釋迦像、真、報		大藏寺		佛菩薩像
					真心寺	南陽市町100	觀音如意像 (木造)
					地福寺	長町字西野2番地69	觀音如意像 (木造)
					長福寺	向日市一丁目20-25	阿彌陀如來像 (木造)
					東光寺	岩坂字入山22	觀音如意像 (木造)
					東秀院	新守小路101	觀音如意像 (木造) 文殊菩薩像 (結仏) 普賢菩薩像 (結仏) 地藏菩薩像 (二種)
					東照院	岡次字守西62	觀音如意像 (木造) 大日如來像
					圓林寺	新守小路91	觀音如意像 (木造)
					精誠院	門前町8-23	觀音如意像 (木造)
					慈惠院	岡田字守家9	觀音如意像 (木造) 釋迦牟尼佛像 東照大師像 普賢菩薩像
					保勝寺	須磨小路108	觀音如意像 (木造)
					妙心院	新守小路39	觀音如意像 (木造)
					則居寺	中田町字新津北21	觀音如意像 (木造) 文殊菩薩像 (結仏) 普賢菩薩像 ()
					隨喜院	志賀町一丁目110	觀音如意像 (木造)
					柳生寺	柳生字北78	觀音如意像 (木造)
					觀音院	子平町19-5	小育觀音如意像 (木造)
					觀音院	六丁目字原1号地7	地藏菩薩像 (木造)
					應良院	東九番丁26	觀音如意像 大日如來...主尊 阿彌 普賢 無量壽 不空成就
					尾次院	長町字引押尾地56	十一面觀音如意像 (木造) 不動明王像 (結仏) 地藏大師像 () 常樂大師像 ()
					林香院	新守小路91	觀音如意像 (木造) 文殊菩薩像 (結仏) 普賢菩薩像 () 人財命財天像 妙善菩薩像
					林松院	新守小路98	觀音如意像 (木造) 文殊菩薩像 (結仏) 普賢菩薩像 ()
					輪王寺	北山一丁目14-4	觀音如意像 (木造) 地藏菩薩如意像 (波多仏) 普賢菩薩像 見涉門人立像

宗派	寺院名	住 所	所 藏 品 (形 刻)	宗派	寺院名	住 所	所 藏 品 (形 刻)
曹洞宗	般若寺		不動明王立像 無外方丈力像 仁王像 (二體) 開基像	淨土宗	願行寺	東九番丁50	阿彌陀如來立像 (本尊) 聖觀世音菩薩像 (胁仏) 勢至菩薩像 (。)
臨濟宗	大梅寺	淀原字綱木裏山4	觀世音菩薩立像 (本尊) 毘沙門天立像 開基像 (森惣國師坐像)				
妙心寺派				久遠寺	東十番丁38		阿彌陀如來像 (本尊)
	覺範寺	北山一丁目12-7	觀世音菩薩立像 (本尊) 聖觀世音菩薩像	慈忍寺	東十番丁218		阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀世音菩薩像
	光明寺	青葉町3-1	千手觀世音菩薩立像 (本尊)	無歸院	新寺小路48		阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀世音菩薩像 (脇仏) 勢至菩薩像 (。) 聖觀世音菩薩像
	圓光寺	福原平松坂70	聖觀世音菩薩立像 (本尊)	正円寺	新坂通6-1		阿彌陀如來立像 (本尊) 聖觀世音菩薩立像 (脇仏) 勢至菩薩像 (。) 六地藏尊 愛宕尊
	資福寺	北山一丁目13-1	聖觀世音菩薩立像 (本尊) 普賢菩薩像 (脇仏) 文殊菩薩像 (。) 觀世音三尊像 (高村光玄) 聖觀世音菩薩坐像				
	瑞應寺	豊田下23-5	觀世音菩薩像 (本尊) 普賢菩薩像 (脇仏) 文殊菩薩像 (。)	正義寺	新寺小路103		阿彌陀如來像 (本尊)
	觀音寺	中野西御堂37	觀世音菩薩像 (本尊)	成實寺	新寺小路52		阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀世音菩薩立像
	方廣寺	横浜市西山20	十一面觀世音菩薩立像 (本尊) 吉祥天立像 布財天立像 不動明王立像 毘沙門天立像 韋馱天立像 人天眾天王像 聖觀世音菩薩坐像 開基像 二代基像	淨土寺	荒浜字西20		阿彌陀如來立像 (本尊) 觀生仙立像 子安地藏像 聖觀世音菩薩立像 (脇仏) 勢至菩薩像 (。) 芳導大師立像 圓光大師立像
				照德寺	岡川字洋通36		阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀世音菩薩立像 (脇仏) 勢至菩薩像 (。)
				資念寺	東九番丁41		阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀世音菩薩像 (脇仏) 勢至菩薩像 (。)
	東片寺	鶴町172	觀世音菩薩像 (本尊) 伊達政宗坐像 伊達政宗代像 普賢菩薩像 (脇仏) 文殊菩薩像 (。) 伊達政宗像	昌鑑寺	新坂通13-1		阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀世音菩薩像 (脇仏) 勢至菩薩像 (。)
				資林寺	鶴見町150		阿彌陀如來像 (本尊) 高麗時代金盤聖觀世音菩薩像 地藏菩薩像 (脇仏) 聖觀世音菩薩像 (。)
	圓滿寺	北八番丁103	聖觀世音菩薩像 (本尊)	龍國寺	新坂町17-3		阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀世音菩薩像 (脇仏) 勢至菩薩像 (。)
時榮寺		火乍寺 長町茂々崎27	觀世音菩薩像 (本尊) 迦葉菩薩像 (脇仏) 阿難菩薩像 (。)	莊嚴寺	新坂町12-1		阿彌陀如來像 (本尊) 十一面觀世音菩薩像 白毫舍利子像 聖觀世音菩薩坐像 (脇仏) 勢至菩薩像 (。)
	桃源院	河原町三丁目 14-10	文殊菩薩像 (本尊) 觀世音菩薩像				
	萬壽寺	原町小田原字志松 16	觀世音菩薩像 (本尊) 地藏菩薩像 阿難像 (脇仏) 迦葉像 (。)				
紅葉教	吉之原	中野字送分125-3	觀世音菩薩像 (本尊)				
	大樹院	慈眼院内沢北 15-2					
淨土宗	円通寺	東九番丁43	阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀世音菩薩像 (脇仏) 勢至菩薩像 (。)				

宗派	寺院名	住 所	所 藏 品 (影 刻)	宗派	寺院名	住 所	所 藏 品 (影 刻)		
淨土宗	大願寺	新坂通7-1	阿弥陀如來像 (本尊) 觀世音菩薩坐像 聖觀音菩薩立像	淨土真宗 大谷派	心福寺	新寺小路79	阿彌陀如來像 (本尊)		
	大慈寺	新寺小路8	阿彌陀如來像 (本尊)		海壽寺		阿彌陀如來像 (本尊)		
	大法寺	三条町7-27	阿彌陀如來像 (本尊)		淨訖寺	八軒小路8	阿彌陀如來像 (本尊)		
報恩寺	東上善丁39		阿彌陀如來像 (本尊) 二十五菩薩立像 (脇仏) 善王、愛王、普賢、法自在 獅子吼、陀羅尼、虛空藏、 無量、普度、金剛、全稱觀 山莊主、光明王、聖嚴王、 聖生王、月光王、白照王、 「時王」定自在王、人身自在 王、白象王、大威德王、無 辯財、聖觀音菩薩、火勢王 以上25菩薩	長勝寺	本2		阿彌陀如來像 (本尊) 城端佛		
宝壽寺		坪沼字北の中47	阿彌陀如來像 (本尊) 不動明王立像 (「兒子像伴」) 觀世音菩薩立像 勢至菩薩立像		東福寺	南御浜町58	阿彌陀如來像 (本尊) 觀世音菩薩坐像		
	永遠寺	八幡五丁目1-8	阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀音菩薩坐像 (脇仏) 勢至菩薩像 (+)		永北院	小原町一丁目2-16	方便法師阿彌陀如來像 (本尊)		
	龜光寺	四郎丸半ノ内97	阿彌陀如來像 (本尊)		蓮仁寺	小原坂山本町24	阿彌陀如來像 (本尊) 觀音、延命上人像 (脇仏)		
妙 宗	阿彌陀寺	新寺小路59	阿彌陀如來像 (本尊) 觀世音菩薩坐像 (脇仏) 勢至菩薩坐像 聖觀音菩薩立像 千手地藏菩薩立像 「善人」立像 開基像 (二種) 金剛輪迦牟尼佛坐像	萬葉宗 智山院	龍印寺	白道字南地3	阿彌陀如來像 (本尊)		
	真福寺	土浦一丁目11-16	阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀音菩薩坐像 (脇仏) 勢至菩薩坐像 安國上人祖師像		鏡泉寺	東上善丁47	阿彌陀如來像 (本尊)		
	慈惠寺	木町32-3	阿彌陀如來像 (本尊)		寶林寺	袋原字内手71	阿彌陀如來像 (本尊)		
淨土真 宗本願 寺派	称業寺	相木三丁目7-3	阿彌陀如來像 (本尊)	林七寺	市本一丁目4-8	阿彌陀如來像 (本尊) 阿彌陀如來像 (本尊)	光西寺	因園九字源通64	不動明王坐像 (本尊)
	常富寺	坂町西通302	阿彌陀如來像 (本尊)		西光院	土越一丁目11-3	十一面觀音菩薩像 (本尊)		
	称念寺	新坂町84	阿彌陀如來像 (本尊) 聖觀音菩薩 阿彌陀如來像 地藏菩薩像		大型寺	宮城郡に移転			
菩薩寺	菩薩寺	坪沼字寺山1	阿彌陀如來像 (本尊) 七珍寶像	不動院	新佐馬町15		不動明王坐像 (本尊)		
	厚能寺	篠生字篠宿16	阿彌陀如來像 (本尊)		宝泉寺	中田町22	不動明王坐像 (本尊) 千手觀音菩薩像 十一面觀音菩薩像		
	超光寺	新堀通4-10	阿彌陀如來像 (本尊)		滿福寺	寛町206	阿彌陀如來像 (本尊)		
本願寺 南北別院	本願寺	友食町1-27	阿彌陀如來像 (本尊)	妙見寺	八幡一丁目19		不動明王坐像 (本尊) 大日如來像 弘法大師像 - 興教大師像		
	祐善寺	今泉字久保山43	阿彌陀如來像 (本尊) 十一面觀音菩薩坐像 阿彌陀如來像		慈惠	木ノ下62	金剛輪迦牟尼佛坐像 (本尊) 不動明王坐像 毘沙門天坐像 小止靜持身坐像 梵天坐像 (本尊) 須彌山王坐像 (本尊) 阿彌陀坐像 (本尊) 法華經 (本尊) 孝感經 (本尊) 金剛經 (本尊) 如意輪 (本尊) 觀音經 (本尊) 自性利益身坐像 月光菩薩坐像 地藏菩薩坐像 不動明王坐像		
	淨土真宗 本谷派	榮明寺	東上善丁8		圓融寺	飯田字上野19	觀音菩薩坐像 (本尊) 大日如來像 (本尊) 藥師如來像		

寺派	寺院名	住 所	所 藏 品 (形 細)	寺派	寺院名	住 所	所 藏 品 (形 細)
真言宗 後山派	廣教寺		弘法大師像 (脇仏) 興教大師像 (+) 千手觀音菩薩立像	天台宗	光嚴寺	北山二丁目14-30	阿彌陀如來像
高野山 御室派	龍寶寺	八幡四丁目8-33	觀音加藥立像 (本尊) 菩薩加藥立像 (脇仏) 文殊菩薩坐像 (+) 不動明王立像 大日如來像 弘法大師像		光勝寺	北二番丁127	延命地藏菩薩 (本尊)
真言宗 高野派	慈見院	銀船町93		寶生院	北山町		持掌聖賢般若圖像 (本尊)
日蓮宗	崇山寺	小鶴五輪町111-2	上界大發先靈 (本尊)		道淨光院	北六番丁284	阿彌陀如來像 (本尊)
	華嚴院	南戲院町75			仙舟院	東山五丁目1-16	觀音加藥立像 (本尊) 文殊菩薩坐像 (脇仏) 不動明王立像 大日如來像 弘法大師像
	華嚴寺	東九番丁55	觀音加藥立像 (本尊) 觀音加藥坐像 上界像 (二十七幅) (五十六幅) 鬼子母神 上國利像 日蓮上人像 伊豫芳芸坐像 不動明王像 十一面觀音菩薩像				觀音加藥坐像 (+) 地藏菩薩立像 十一面觀音菩薩坐像 十一面觀音菩薩立像 觀音世音菩薩立像 十一面觀音菩薩坐像 地藏菩薩立像 十一面觀音菩薩坐像 虚空藏菩薩坐像 人眾天王像 阿彌陀如來坐像 その他の多數
	法華寺	通坊小路303	觀音加藥立像 (本尊) 鬼子母神像 上行・無近行・淨行、安行四菩薩 (脇仏)		妙人院	原町一丁目 1	千手觀音菩薩像 (本尊) 一光二部陀羅尼陀羅尼像 大理石觀音菩薩像
	報恩教會	通坊小路299			圓滿寺	元寺小路122	阿彌陀如來像 (本尊) 觀音菩薩坐像
	法輪院	東九番丁62	曼陀羅				
	本國寺	八幡六丁目13-26					
	妙蓮寺	岩切字大前103	觀音及菩薩立像 第七番號立像	天台宗	寬行院	八幡四丁目15-2	大日如來像 (本尊)
	妙音院	東九番丁49	觀音加藥不動 (本尊) 莊惠上人像 (脇仏) 七面天女像 (+)				
	妙法寺	北山一丁目 8-15					
	瑞應院	東九番丁67	觀音加藥像 (本尊)				
日蓮正宗	弘顯寺	荒町35	日蓮聖上像 (本尊) 日蓮上人像 (脇仏) 日蓮上人像 (+)	佛 堂	相川御堂	辻ノ町	延命地藏菩薩像
	山淨寺	荒町95	日蓮上人像 日蓮上人像		阿彌陀院	如意	阿彌陀如來像
本門 佛教宗	円通寺	小鶴西町122			觀音院	飯田	觀音菩薩坐像
	妙慶院	東九番丁73			香谷製菓堂	御前	香谷製菓堂
日山宗 妙法宗 人間福	日本山妙 法寺御前 人間福	元寺町新1052-4			日吉製菓堂	中野字中野	日吉製菓堂
光明宗	延壽院	宮町五丁目 6-18	阿彌陀如來像 (本尊) 右立像 延命地藏菩薩像 淨觀像		御茶園堂	南宿字竹内 長町一丁目	御茶園堂



写真 1



写真 4

写真 5

写真 3

写真 4

写真 5



写真 6



写真 7



写真 8



写真 9



写真 10



写真 11

（写真説明）

- 写真1 十一面觀世音菩薩立像(2)・弁財天立像(1)・吉祥天立像(3)（善應寺藏）
写真2 楊沙門天立像（善應寺藏）
写真3 観迦如來立像（大梅寺藏）
写真4 阿彌陀如來立像（阿彌陀寺藏）
写真5 聖觀世音菩薩立像（阿彌陀寺藏）
写真6 五智如來坐像（龍泉院藏）(1)阿闍梨如來(2)寶生如來(3)大日如來(4)不空成就如來(5)無量壽如來
写真7 大元明王立像（大崎八幡神社藏）
写真8 観迦如來坐像及び胎内仏（大林寺藏）
写真9 伝安國上人祖師像（真福寺藏）
写真10 伝一遍上人祖師像（阿彌陀寺藏）
写真11 雲居国師坐像（大梅寺藏）

仙台市郡山地区における講集団について

昔、1つの地区は1つの統合された社会集団として存在し、その維持存続のための諸機構があった。それらは原則的に地区を構成する全部の家から1戸1人ずつ戸主が出て運営するものであった。しかし、地区には全戸によって構成されるのではなく、特定の家ののみで構成される集団もあったし、各家の戸主以外の人物によって構成される集団もあった。また、地区的運営に直接的に関係しない信仰的な目的や娛樂的慰安的な行事をするための集団もあった。このように、地区の内部には大小さまざまな集団が重層累積していくことになる。これらの伝統的な地区の内部集団を多く「講」と呼んでいる。

現在、宮城県内の村落にはたいてい講が存在し、機能し続けてきている。そこで現実生活の中で講がどのような役割を果たしてきたかを郡山地区の講の調査をもとに考えてみたい。

郡山地区は仙台市の南、広瀬川と名取川にはさまれた自然堤防上に立地している。近郊農業地帯であったが、近年、工場や住宅の建設が活発で、その様相も一変しようとしている。その中の郡山中区といわれる所には、矢口、矢来、在家、龍瀬といふ地区があり、今回調査を実施したのはその中の矢口、矢来地区である。以下はそこで聞いた講集団に関する報告である。

(1) 若者契約

若者契約は青年会ともいい、規約があった。そして、堀払いや夜番（夜まわり）など地域への奉仕活動を行った。また、村祭には神輿を扭いだりした。講日は旧暦の2月8日と10月8日だった。35名ぐらいが入っており、講日にはお互いに米1升を持ちより、餅を摺いて昼夜2回に分けて食べた。2回目の食事の時、足りなくなった分は宿前で追加した。中には大椀で16杯も食べた人がいた。(12杯ぐらいで一升)

(2) 契約会

地区的戸主が参加する契約講で、春秋2回講日があった。宿は持回りで、米と野菜代をお互いに出し合った。米は宿に当っている人が講日のおふれをしながら集めて回った。また、ティカタといって、5・6軒ぐらいでグループを作つておいてその中の1軒に宿が当った時にはお互いに手伝った。ただ、その手伝いには男だけが参加した。

講会への出席は厳重で、羽織・袴着用で出席し、会に遅刻するなどの契約違反をしたときは、罰金として酒5升を買わなければならなかった。講会当日は共同生活についての協議をした後親睦の宴になった。ふだんは麦4米6のご飯だったので、講会で白ご飯を食べられるのが楽しみだった。この時に使われる膳・椀・皿・丼などは講会で揃えたもので、長持に入れておいて持回りした。

講会には規約があって、道普請とか、屋根葺には繩をなって持参するとか、葬儀には講員がどのような役割をするなど細かく記述されていた。

ただ、戦後、町内会という組織ができたために、契約会は廃止された。

(3) 古峯原講（コバハラ講）

現在は矢口と矢来の2つに分かれて行われているが、昔は1つだった。昔の記録が見つかってそれがわかった。栃木県鹿沼市にある古峯神社に講員が代参する。そこで、火防と室内安全を祈願する。

代参はくじ引で順番を決め、矢口では4名、矢来では2名ずつ行く。講員で積み立てをしておき、その時の旅費とお宿費にあてる。1月にお詣りに行き、講員全員のお札をうけて来て配布する。この時の集まりをゲコウという。その時には代参した者が御神酒として酒1升を土産にもってきて皆にふるまう。ごちそうは宿に当っている所で作り、米は各家で持ち寄る。米の量も矢口では3合、矢来では2合と決っている。講日は昔は年に5回行っていたが、現在は3回しか行っていない。講会当日は古峯原神社という掛軸をかけて宴を開いた。

(4) 観音講

講日は戦前まで旧暦の2月17日と10月17日だったが、現在は新暦で行っている。現在は、郡山地区の矢口・矢来・蘿瀨の24軒の上始やおばあさんが参加している。宿は持回りでくじ引で順番を決め、12年に1回宿に当るようになっている。4・5軒でグループを作つておいて、その中の人が宿に当った時にはお互いに手伝いをすることになっている。

その時のごちそうは精進料理で、昔は赤飯を食べたという。現在は寿司（稻荷寿司とのり巻）を食べる。その昔はアンコ餅だったが、いろいろな事情で赤飯になり、最近は農家だけでなく加入しているために寿司になった。赤飯の時には米5合を持ち寄つて、昼夜2回子どもと一緒にお膳を開んで食事した。夜にはいろいろな人を寄せて楽しみながら食事した。宿も持回りで昔は各家を回ったが、現在は公会堂を利用することも多くなつた。

講には御本尊と掛け軸があり、宿に当ったところで保管している。掛け軸は中国に行ってきた人の持ち物で寄贈してもらったものだという。

(5) その他の講

山の神講というのが昔はあって、若い主婦の集まりだった。安産と子産を祈願する講会で講員の親睦を兼ねたという。小牛田町の山の神神社に代参したという。その他にも、お伊勢講とか三山講などあったという。北目地区の方にはそれに関連したと考えられる石碑も残っている。

以上、みてきたように講のしくみや機能がいくら多様化、複雑化しても、適当な材料を持ち

寄り、仲間の1軒を宿とし、そこで料理を作つて飲み合い食べ合うという共同飲食の条件はかわらない。そして、それが大変樂しみだったという感想が述べられているところに講の果たしてきた役割があったのではないかと考えられる。

話者：仙台市郡山三丁目19—1

タ

仙台市郡山三丁目24—8

仙台市郡山二丁目14—19

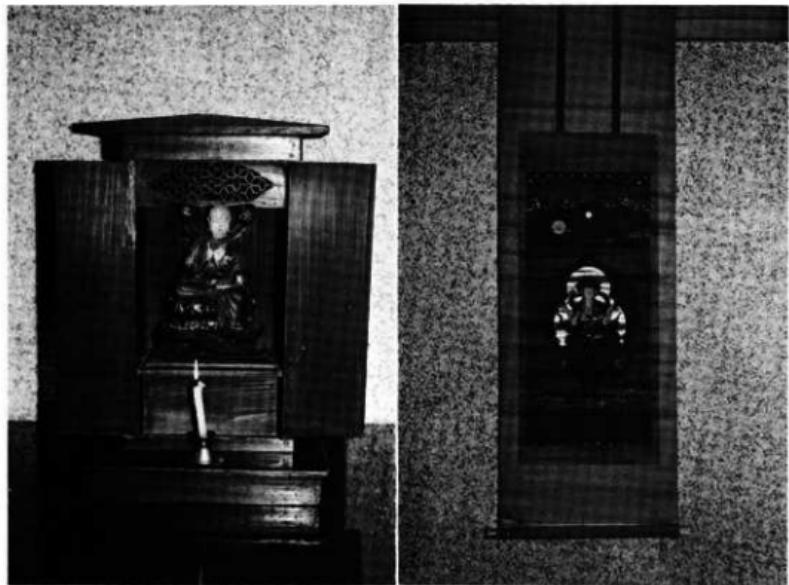
赤井沢 久治 54歳

赤井沢 文枝 53歳

斎 藤 たより 58歳

渡 辺 久治 72歳

(山 口 宏)



頸音講で祀られる御本尊と掛軸

今年2月に行われた
観音講の様子。



III. 案 報

1. 外部協力活動

文化財の保護、啓発につき、仙台市内外からの協力要請があり、下記の講演等を実施した。

55・5・15	仙台の文化財と燕沢付近の歴史	燕沢小学校社会学級	担当：早坂春一
55・5・28	燕沢周辺の遺跡見学	〃	白石市教育委員会
55・6・8	山田上ノ台遺跡の見学	中央公民館老壯大学	
55・10・15	多賀城跡とその周辺の遺跡見学	〃 成人学級	
55・10・27	市内の文化財めぐり	李町小学校社会学級	
55・11・25	仙台の歴史	中央公民館明青大学	
55・11・26	郷土の文化遺産	生出公民館老壯大学	
56・2・14	郷土の文化財		
55・4・26	仙台市の文化財めぐり	色麻町教育委員会	担当：渡辺洋一
55・6・17	原始、古代の日本	視聴覚教材センター	
55・8・5～6	夏休み縄文土器づくり (古代人の知恵を探る)	中新田町教育委員会	担当：田中則和
55・8・12			

2. 研修と視察

(1) 研修

55・9・25～55・10・4 縄文・弥生遺跡調査課程 於：奈良国立文化財研究所 結城慎一
埋蔵文化財センター

55・11・5～55・11・15 歴史時代遺跡調査課程 於：奈良国立文化財研究所 篠原信彦
埋蔵文化財センター

(2) 観察

環境整備事業先進地視察として、鈴木高文、山口宏（文化財管理係）、斎藤隆一（公園課）が次のとおり視察した。（55・7・9～55・7・11）

東京都国分寺市 武藏国分寺跡
埼玉県行田市 さきたま風土記の丘
群馬県高崎市 觀音山古墳

3. 寄贈図書について

65の機関より153冊の図書の寄贈にあづかった。

4. 仙台市内の指定文化財

仙台市では、文化財保護の一環として、文化財の指定を進めている。現在市内には、国宝3件、国定指定文化財23件、県指定文化財28件、市指定文化財25件、計79件の指定文化財がある。

仙台市内にある指定文化財一覧表

(昭和55年11月現在)

種別	名 称	所 在 地	所有者(管理者)	指定年月日
(A) 建造物				
国 宝	大崎八幡神社	八幡四丁目6の1	大崎八幡神社	昭27.11.22 (36.4.15)
国指定重要文化財	大崎八幡神社長床	八幡四丁目6の1	大崎八幡神社	昭41. 6.11
国指定重要文化財	陸奥國分寺薬師堂	木ノ下三丁目8の1	陸奥國分寺	昭36. 4.15
国指定重要文化財	東照宮	東照宮一丁目6の1	東照宮	昭28. 3.31
国指定有形文化財	東照宮六角門	東照宮一丁目6の1	東照宮	昭55. 1.29
県指定有形文化財	東照宮手水舎	東照宮一丁目6の1	東照宮	昭39. 9. 4
県指定有形文化財	白山神社本殿	木ノ下三丁目9の1	白山神社	昭30. 3.25
県指定有形文化財	萬合觀音堂	四郎丸子舊舍	光西寺	昭44. 8.29
県指定有形文化財	大崎八幡神社石鳥居	八幡四丁目6の1	大崎八幡神社	昭45.10.30
県指定有形文化財	龟岡八幡神社石鳥居付鳥居前	川内鬼岡町	龟岡八幡神社	昭45.10.30
県指定有形文化財	安城縣知事公館正門(旧仙台城門)	広瀬町5の43	宮城県	昭46.11. 9
県指定有形文化財	旧仙台城板倉	岩切三所北16	日野財治郎	昭53. 5. 2
県指定有形文化財	陸奥國分寺薬師堂仁王門	木ノ下三丁目	陸奥國分寺	昭50. 4.30
県指定有形文化財	善心寺開山堂	燕沢字西山	善心寺	昭43. 2.15
県指定有形文化財	旧第4回演舞兵舎	五輪一丁目3の7	仙台市	昭53. 6.16
(B) 彫 刻				
国指定有形文化財	木造迦叶如来立像	八幡四丁目8の32	龍宝寺	昭36. 4.15
県指定有形文化財	木造十一面神像	木ノ下三丁目8の1	陸奥國分寺	昭34. 8.31
県指定有形文化財	聖觀音像	新寺小路52	成覚寺	昭49. 4.30
県指定有形文化財	毘沙門天立像	木ノ下二丁目4の1	純奥國分寺	昭50. 4.30
県指定有形文化財	不動明王立像	木ノ下二丁目4の1	慈奥國分寺	昭50. 4.30
県指定有形文化財	木造十一面觀音立像	松岡町64	葛谷希和子	昭51. 3.29
県指定有形文化財	阿弥陀如來立像	新寺小路59	阿弥陀寺	昭55. 5.30
市指定有形文化財	木造迦叶如来坐像	北山一丁目14の1	輪王寺	昭51. 7. 1
(C) 絵 画				
国指定有形文化財	慶長遣欧使節関係資料	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭41. 6.11
県指定有形文化財	宮城県岸田前因	権ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭48. 1.16
県指定有形文化財	松島五大金冠	権ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭48. 1.16
県指定有形文化財	松島圖	権ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭48. 1.16
県指定有形文化財	清海 茶羅園付淨土	新寺小路32	成覚寺	昭49. 4.30
市指定有形文化財	清海 茶羅園記録中書	新寺小路32	仙台市(博物館)	昭44. 7.31
市指定有形文化財	紙本著色伊達政宗肖像	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	狩野探幽草	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	菊絵和歌所風	川内三の丸跡	阿部和子	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	鄭卿・向花見園屏風	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	菅井梅園水亭亭翠園	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
(D) 古 跡				
国 宝	紙本着色頼朝御史	片平二丁目1の1	国(東北大大学保管)	昭27.11.22
国 宝	紙本着色史記	片平二丁目1の1	国(東北大大学保管)	昭27.11.22
市指定有形文化財	喜居神師盛路三幅村	茂庭字鶴木義山4	大椿寺	昭51. 7. 1

種別	名 称	所 在 地	所有者(管理者)	指定年月日
(I) 工芸				
国指定重要文化財	太刀	川内堀田町62	龜岡八幡神社	大3. 4.17
国指定重要文化財	白長握輪太刀	吉原郡丁目8の16	杉山 勇	昭14. 5.27
国指定重要文化財	鍔 鍔	笠置下23の5	堺屋 亂	昭54. 6.29
国指定重要文化財	刀	楓原町3の10	大竹 左右吉	昭54. 6.29
国指定重要文化財	伊達政宗所用具足	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭54. 6. 6
国指定重要文化財	豊臣秀吉所用具足	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭54. 6. 6
県指定有形文化財	刀	根岸町3の10	大竹左右吉	昭37. 6.28
県指定有形文化財	刀	中央二丁目	日本舞楽太郎	昭54. 8.31
県指定有形文化財	刀	国分町二丁目	佐藤 文平	昭34. 3.31
県指定有形文化財	刀	番町二丁目11の8	中川 高	昭54. 8.31
県指定有形文化財	太刀	一番町三丁目11の8	中川 高	昭34. 8.31
県指定有形文化財	三沢初子所用帶	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭38. 8.31
市指定有形文化財	鏡襷十二神浮像掛軸	川内三の丸跡	陸奥国分寺	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	梵鐘	向山四丁目	大瀧 寶	昭52. 3. 1
(II) 書				
国指定重要文化財	埴輪武装男子手杖像	古原四丁目8の16	杉山 勇	昭15. 5. 3
国指定重要文化財	硬玉製有孔玉器	台原四丁目8の16	杉山 勇	昭37. 2. 2
国指定重要文化財	埴輪円筒	片平二丁目1の1	国(東北大)	昭34. 6.27
国指定重要文化財	陸前国治田貝塚出土品	片平二丁目1の1	国(東北大)	昭38. 7. 1
国指定重要文化財	硬玉製唐草石斧	台原四丁目8の16	杉山 勇	昭48. 6. 6
(III) 歴史資料				
県指定有形文化財	釋迦萬國全圖	桜ヶ岡3	宮城県(図書館)	昭51. 3.29
市指定有形文化財	淨天儀	桜ヶ岡公園1の1	仙台市(天文台)	昭45. 2.23
市指定有形文化財	象限儀	桜ヶ岡公園1の1	仙台市(天文台)	昭45. 2.23
市指定有形文化財	天球儀	桜ヶ岡公園1の1	仙台市(天文台)	昭45. 2.23
市指定有形文化財	應永集(村田本)	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	晴宗公妾地蔵鉢	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
(IV) 金石文				
市指定有形文化財	芭蕉句碑	木ノ下三丁目	陸奥国分寺	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	大庭三千風景詩	木ノ下二丁目	陸奥国分寺	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	芭蕉句碑	桜ヶ岡23	桜ヶ岡 天満宮	昭52. 3. 1
市指定有形文化財	源町苦竹の通知るべ石	源町二丁目	仙 古 市	昭52. 3. 1
(V) 無形文化財				
県指定無形文化財	平曲	国見二丁目9の31	館山 申午	昭44.12.12
県指定無形文化財	精好仙台半	長町一丁目8の6	申田 錠郎	昭51. 3.29
(VI) 無形民俗文化財				
県指定無形民俗文化財	大蛇八幡神社の能神楽	八幡四丁目	大蛇八幡神社の能神楽保存会	昭47.10.11
(VII) 史跡				
国指定史跡	陸奥国分寺跡	木ノ下二丁目、三丁目	仙台市ほか	大11.10.12
国指定史跡	陸奥国分尼寺跡	白萩町	仙 台 市	昭23.12.18
国指定史跡	林子平墓	子町	電氣院(仙台市)	昭17. 7.21
国指定史跡	通見塚古墳	遠見塚一丁目	仙 古 市	昭43.11. 8
市指定史跡	善光寺横穴古墳群	藤沢寺西山	善 店 寺	昭43. 2.15
市指定史跡	三沢初子の墓など	東九番158	仙 台 市	昭47. 2. 1
市指定史跡	刀工木彌園を各代の墓所	新寺小路88	善 店 寺	昭55.10.20
(VIII) 天然記念物				
国指定天然記念物	苦竹のイチヨウ	鶴巣町	永野 草(仙台市)	大15.10.20
国指定天然記念物	朝鮮のウメ	古城二丁目	法務省(宮城刑務所)	昭17. 9.19
国指定天然記念物	青葉山	並谷青葉12番の内	国(東北大)	昭47. 7.11
県指定天然記念物	東昌寺のマルミガヤ	青葉町	東 山 寺	昭30. 3.23
市指定天然記念物	雲崖下セコイア化石林	末次美一丁目・二丁目・秋田下	宮 城 県	昭48. 8. 6
市指定天然記念物	大椿寺のヒヨクヒバ	茂庭字網木森山14	大 桧 寺	昭52. 3.11

仙台市文化財調査報告書刊行目録

- 第1集 天然記念物電壓下セコイア化石林調査報告書（昭和39年4月）
第2集 仙台城（昭和42年3月）
第3集 仙台市燕沢善光寺横穴古墳群調査報告書（昭和35年3月）
第4集 史跡陸奥国分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年3月）
第5集 仙台市南小泉法輪寺跡占拠調査報告書（昭和47年8月）
第6集 仙台市荒巻五本松窟跡発掘調査報告書（昭和48年10月）
第7集 仙台市富沢裏町古墳発掘調査報告書（昭和49年3月）
第8集 仙台市向山愛宕山横穴群発掘調査報告書（昭和49年5月）
第9集 仙台市根岸町宗禅寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年3月）
第10集 仙台市田町安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年3月）
第11集 史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年3月）
第12集 史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年3月）
第13集 南小泉遺跡一範囲確認調査報告書一（昭和53年3月）
第14集 栗遺跡発掘調査報告書（昭和54年3月）
第15集 史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年3月）
第16集 六反田遺跡発掘調査（第2・3次）のあらまし（昭和54年3月）
第17集 北星敷遺跡（昭和54年3月）
第18集 桥江遺跡発掘調査報告書（昭和55年3月）
第19集 仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年3月）
第20集 史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年3月）
第21集 仙台市開発関係遠跡調査報告I（昭和55年3月）
第22集 稲ヶ峯（昭和55年3月）
第23集 年報1（昭和55年3月）
第24集 今泉城跡発掘調査報告書（昭和55年8月）
第25集 三神峯遺跡発掘調査報告書（昭和55年12月）
第26集 遠見塚古墳昭和55年度調査概報（昭和56年3月）
第27集 陸奥国分寺跡昭和55年度調査概報（昭和56年3月）
第28集 年報2（昭和56年3月）

仙台市文化財調査報告書第28集

昭和55年度

年 報 2

昭和56年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市宮町3-7-1

仙台市教育委員会社会教育課

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市立町24-24 TEL. 63-1166



文化財保護シンボルマーク